

2024年度 南部丘陵保全のための 担い手育成プロジェクト

【プロジェクト対象者】大学生9名、社会人3名
 【学識者】大阪公立大学 教授 加我宏之
 【実習講師】堺自然ふれあいの森 指定管理者
 堺市役所 公園緑地整備課

堺市の広大な南部丘陵を守るためには、保全の担い手の育成が必要不可欠です。このプロジェクトでは、里山保全に興味のある大学生や社会人を対象に、堺市南部丘陵保全の拠点施設である「堺自然ふれあいの森」の指定管理者による里山保全実習を受けました。また、実習を終えたメンバーは、実習で得た技術を活かし、小中学生向けに、里山保全を体験することが出来るプログラムの企画・運営を行いました。

プロジェクトの流れ



メンバーは指定管理者から里山の保全整備、生物調査などの実習を受け、様々な技術を身に付けました。



企画準備のプロセスでは、まずプログラムのテーマを決め、そのテーマを元に企画会議を重ねました。今回は一般募集のため、チラシ制作とSNSなどの広報にも力を入れました。また、森に来たことが無い方も体験に参加されるため、プログラムを安全に体験してもらえるよう、声かけや道具の取り扱いなどの安全講習もしっかりと取り組みました。



企画・準備を終え、3月2日に、一般参加者に向けて里山保全体験プログラムを実施しました。

プログラム「大学生とやってみよう！里山保全体験」
 【参加者人数】小学生9名【実施日】2025年3月2日

午前の部



午前の部は、身体を動かすアイスブレイクからはじまり参加者同士の親睦を深めました。安全講習では刃物の扱い方や注意点の説明に加え、安全ポイントを全員で復唱しました。ネザサ刈りでは横一列に刈り進め、チームごとに休憩をとりながら全員で協力して取り組みました。

午後の部



午後の部は、まず全員で刃物の扱い方と注意点を再確認しました。伐倒体験では伐木から剪定まで一連の作業を行い、伐倒の際は特に周囲の安全に注意しました。最後に、午前の部で刈ったネザサから作ったお茶を味わいながら、今回の活動や作業が森の保全にどのように役立つのかを説明しました。

本年度のプロジェクトに参加した担い手たち



メンバー全員が入念に準備し、企画運営を行った結果、安全に里山保全体験に取り組むことが出来ました。参加者から「またチャレンジしたい」「すごく楽しかった」などの声がありました。

pick up! 木のペンダント

「参加した証を形に残したい」想いから名前入りの木のペンダントを配布しました。参加者からは「また来るとき着けてくる！」「思い出になる！」など嬉しい声がありました。